

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての視点から指導案を作成して下さい。

特別の教科 道徳

## 第 学年 道徳科学習指導案

令和 年 月 日 ( ) 校時  
 学校 年 組 計 名  
 指導者

【年間指導計画 (4)学年 P( ) 月計画】

※原則として、年間指導計画通りに実施する。

### 1 主題名 (例) 「村の仲間として」

※主題名を見て「何を」指導するのか、授業の内容を把握できるようにすることが大切。

### 2 教材名 (例) 「山びこ村の二人」 内容項目「C 公正、公平、社会正義」

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする道徳的価値

※ねらいや指導内容についての教師の考え方

- ・指導する内容項目の意義や社会から要請されている今日の課題、内容項目についての授業者の基本的な考えについて示す。その際、学習指導要領解説を手掛かりとする。

##### (2) 児童 (生徒) の実態

※ねらいに関わって、これまでどのような指導を行ってきたのか。また、児童生徒の発達段階との関連、この時期に指導する必要性、これまでどのような経験をしていたか等を示す。

##### (3) 教材について

※教材のよさ (特徴) やどのように教材を活用するのか等、具体的な活用について示す。

### 4 本時の学習

#### (1) ねらい (例)

五郎と村人の思いや考えの違いについて話し合う活動を通して、五郎の差別を許さない心や相手を受け入れる行為によって、一人一人のよさが発揮され、集団として高まることに気づき、差別を許さず、公正、公平な態度で、誰にでも温かく接しようとする道徳的実践意欲を育てる。

※学習活動「～活動を通して」+気づかせたいこと「～について気づき」+道徳性の諸様相の3つの構造を一文で表す。

#### (2) 授業の工夫 (例)

- ・ 展開の場面において、自分事として考えられるようにネームプレートを活用し、自分の立場を明らかにする状況をつくる。
- ・ 展開の場面において、考えを深めるため「本当にそれだけだろうか」と問い返す。(ゆさぶる発問)
- ・ 展開の場面において、新しい気づきを自覚させるために、導入時の児童の考えについて振り返る。

※ねらいに迫るための手立てや、工夫した指導法について具体的に示す。  
 ～の場面において (場の設定)、～する (手立て、方法)

(3) 展開 (例)

段階	学習活動	○主な発問 ◎中心発問 ◇補助発問	・予想される児童・生徒の反応	◆指導上の留意点 □評価
導入 (5) 分	1. これまでの学習や経験から「仲間はずれ」について話し合う  内容項目への働きかけ(気づき・「問い」)  問題把握(学びの方向性)	○これまで「仲間はずれ」をしたことある人。 されている人を見た人、されたことある人  ○「仲間外れ」は、どんな時に起きるのだろう  ○『よい集団になるには』	【仲間はずれをした】 ・きっと相手は嫌だったかも 【仲間はずれを見た】 ・助けたかったけど・・・ 【仲間はずれされた】 ・とても辛かった  ・馬鹿にしやすい人がいる時 ・集団ならどこでも起こる	◆これまでの経験から人間の弱さに対する共感させる。  本時で考えたいことを焦点化する
展開 (33) 分	2. 範読 教材の中に、「仲間外れ」があるか視点を与えてから読む  教材との対話(範読)  3. それぞれの立場になり五郎と村人と考えの違いについて話し合う  自分との対話(自己を見つめる)  他者との対話(多面的・多角的な考え)  4. 「仲間外れ」にしないよさについて考える	○お話の中に「仲間外れ」はありましたか  読む視点を与える  ○平八はどんな人ですか  ◇自分だったら平八を呼びに行きますか  ◎うたげのあと、変わったことはありますか  ◇変わったのはそれだけ(問い返し)  問い返すことで考えを深める  ○「仲間外れ」をなくすために大切なことは  新たな気づきや問題など人としての生き方について考えを深めたり交流したりする	・村人が平八にしている ・おとの様も平八のことを仲間外れにしているかも  【村人】 ・自分のことだけ考える ・平八は役立たず、必要ない ・平八がいると面白くない 【五郎】 ・平八も同じ村人、仲間外れにできない ・村のみんなで祝いたい  【平八】 ・平八が働き者になった ・自分の特技を生かした ・生き生きした  【村人】 ・平八を見る目が変わった  【村】 ・魚がとれゆたかになった ・みんな笑顔になった  ・相手を受け入れる心 ・集団の仲に嫌な思いをしている人がいないか考える ・自分の好き嫌いで考えない ・相手のよいところをさがす	◆教材の内容を把握できるよう工夫する  人柄を問うことでその背景など状況把握につながることもある  ◆広がりのある発問を意識し多様な意見を引き出す □自分との関わりで考える ◆状況を見て必要であればペアトークを設定する □多面的・多角的に考える ◆理由を大切に話し合う ◆ねらいにせまるために発問を焦点化する ◆物質的な豊かさで終えない ◆集団としてのよさも捉える
終末 (7) 分	5. 自分に振り返る  振り返り(自己の考えを深める)  振り返りの共有(新たな「問い」)	○今日の学習で分かったこと、これまでの自分、これからのことについて振り返りましょう	・よい集団は、多様な考え方を認めることで一人一人のよさが発揮され、集団として高まっていくことが分かった。	◆子どもの発言を活用して振り返る ◆多様な意見を拾い共有する

※問題解決的な学習や自我関与、体験的な学習など様々指導法を組み合わせましょう。【令和3年「問い」サポ】

5 評価（例）

- ・「公正・公平」であることよさについての学習を通して、多面的・多角的な視点から考えることができたか。また、自分との関わりで学習を深めていたか。

※学習過程のなかで期待する子どもの姿（児童生徒の活動に着目する）を記述する。  
（学習指導要領解説編 小：P107～116 中：P109～118）

6 板書計画

※指導案の提出にあたっては、教材を添付する。